

カノープスをみよう



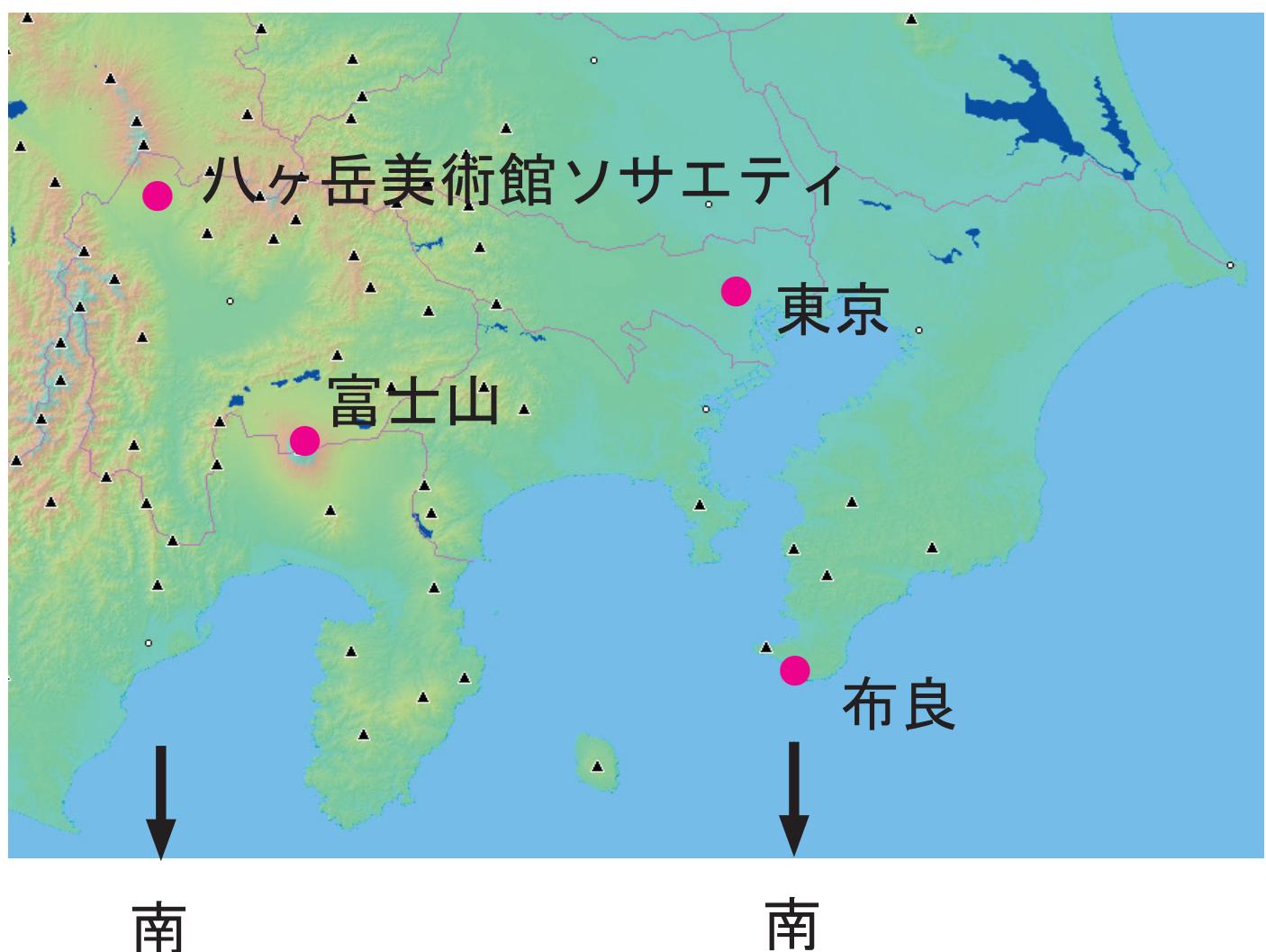
カノープスはりゅうこつ座の1等星で冬、南の地平線ぎりぎりにしか現れません。なかなか見られないこの星を見ると「長生きする」といわれます。別名「南極老人星」とも「布良星」とも言われます。

布良星の由来は千葉県房総半島の突端にある「布良」という場所で見られるのでそう呼ばれます。

ふつう、カノープスは南の地平線が見える海岸などでなければ観察できません。

しかし、偶然にも八ヶ岳美術館ソサエティの展望台からカノープスが見えます。山岳地域で見られる場所はとても珍しいのです。

この場所は標高約 1100m から見下ろす場所で、しかも南が富士川に沿って開けているからです。



この場所でカノープスを見る方法

- 1、見える方向に雲や霧、モヤがない日。
 - 2、見える期日と時間が限られます。
 - 3、月明かりのない日には肉眼でも見えますが、月明かりがあるときは双眼鏡などで探してください。
- カノープスは赤く輝いています。

見る方向

甲府盆地の夜景の右側の地平線近く。
山名の解説板を見ると「甘利山」があります。カノープスは甘利山のやや左から真上を通過して、山に隠れます。

カノープスが見える時刻表

日時	見え始め	南中	山に隠れて見えなくなる時刻
12月1日	0:30	1:30	1:55
12月15日	23:35	0:35	0:50
1月1日	22:30	23:30	23:55
1月15日	21:30	22:30	22:55
2月1日	20:25	21:25	21:50
2月15日	19:30	20:30	20:55
3月1日	18:40	19:35	20:00
3月10日	18:45	19:00	19:25

カノープスは上記の時刻表の12/1～3/1までの間なら毎日見られます。
「南中時刻」の、1時間前、25分後まで見られます。

南中時刻が月日を追うごとに、早くなつてきます。(半月で約1時間、1日約4分)
時刻表にない日はおおよその南中時刻を読み取り観察してください。

ただし、3/10くらいが最終で、日没の時間が遅くなる分、見える時間は少なくなります。